

2014年度あさひかわオープンカレッジ 連携講座

「もっと知りたい旭川Ⅱ

～旭川のなりたちとこれから～」

報 告 集



一般社団法人旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

共催：旭川市教育委員会

刊行にあたり

今日、大学・短大や高専などの高等教育機関は、地域の自治体と結びつき、地域の課題に取り組みながら人材を養成するとともに、そのもてる知的かつ物的資源を積極的に発信することによる社会貢献を使命としています。本公開講座は、一般社団法人旭川ウェルビーイング・コンソーシアムによって企画・運営される生涯教育の試みとして、単なる知的興味の満足や情報伝達に終わるのではなく、市民の皆様とともに旭川圏域の課題をより現実的に受け止め、さらなる地域づくりに寄与することを目標とするものであります。

平成 26 年度には、例年のように旭川市教育委員会との共催により、「もっと知りたい旭川Ⅱ～旭川のなりたちとこれから～」という統一テーマのもとに 5 大学・短大 1 高専による連続公開講座を 9 月に 1 回、10 月に 2 回、11 月に 3 回実施いたしました。

これからの旭川圏域の地域課題を担うべく、このたび実施されました連携公開講座を通して、市民の皆様が発信される知的情報は、その都度の講座でいただいた聴衆の方々からの生き活きとしたレスポンスを得てはじめて、私たちが共に暮らす社会のウェルビーイング（幸福）にとって着実な成果をもたらすことができるでしょう。

最後になりますが、本連携公開講座に快く参加していただいた関係各位の皆様、市民の方々には、衷心より御礼を申し上げます。今後のさらなる地域の発展と連携の充実を祈念しつつ刊行の挨拶とさせていただきます。

目 次

第1回「英語学者 田中菊雄の旭川」 北海道教育大学旭川校 准教授 十枝内 康隆	— 2
第2回「立体スケッチ入門」 —コンピュータによる3Dモデリング— 東海大学国際文化学部 教授 渡辺 宏二	— 4
第3回「中核都市旭川成立の歴史背景」 旭川工業高等専門学校 教授 平野 友彦	— 7
第4回「旭川市は子どもたちにやさしいまちになれるか」 旭川大学短期大学部 助教 清水 冬樹	—10
第5回「活力ある高齢社会を築くために ～地域ので、まちを元気に！～」 旭川大学保健福祉学部 教授 林 芳治	—14
第6回「歌謡曲の中の旭川」 —札幌・函館・小樽・釧路などの場合と比較して— 旭川医科大学 教授 藤尾 均	—16
「あさひかわオープンカレッジ」アンケート集計 サテライトキャンパス U-プラザ事務局	—20

英語学者 田中菊雄の旭川

2014年9月27日(土) 13:00~14:30

北海道教育大学旭川校 十枝内 康隆

今では長く品切れとなっていてなかなか入手しがたいのであるが、昭和を代表する英語辞書のひとつに『岩波英和辞典』(初版 1936, 新版 1958)がある。扉では3名の共著となっているが、実質この辞書は田中菊雄(1893—1975)のほぼ独力による仕事であった。辞書をひとりで執筆するというのは、今日ではまず行われることがなく、またほとんど想像することもできない大変な作業である。田中にはほかにも『英語研究者のために』(1940)や『英語広文典』(1953)といった名著があり、長く読み継がれてきた。

田中をいちおうは「英語学者」と呼んでみたが、田中は英語を言語学的に研究するという現在一般の意味における英語学者ではない。外国語に通じ、文学を始めとして、哲学、歴史学、さらにはある程度まで自然科学分野にも通じた、広い意味での知識人と分類すべき人物であろう。旧制高等学校の教授にはこのような人物が多く、『三四郎』の廣田先生のような名物教授も少なくなかった。教え子たちの回想をみると、田中菊雄もそのような名物教授のひとりであったらしい。

だが実は田中菊雄の最終学歴は旭川の大成小学校高等科であり、その後は国鉄の列車給仕等を勤めながら英語の学習を続けた。やがて1922年には文検(師範学校中学校高等女学校教員検定試験)に合格、さらに1925年には高検(高等学校教員検定試験)に合格し富山高等学校(現富山大学)に着任し、戦後は山形大学教授、神奈川大学教授を歴任した。かつてはこのように大学を卒業せずとも高等教育に携わる可能性があったのだけれども、これらの試験の難易度は相当高く、高等師範学校や旧制大学を経てこれらの教職に就いた教員に通常求められていた以上の厳しい水準が課せられていたことが、当時の試験問題からも分かる。これに田中はほぼ独学で合格したのであった。

昨今は家庭の収入格差がそのまま子どもたちの学力格差につながるという問題が指摘されており、収入の少ない家庭の子どもたちは十分な教育を受けられず、社会階層の固定化を生みかねないという指摘がある。このような問題に対して、本学でも学生たちが主体となって100円塾「ゆずりは」というサークルを立ち上げるなど、さまざまな学習支援活動を活発化させているが、まだまだ十分とは言いがたい。現代よりもはるかに社会階層が固定化されており、階層

間の移動が困難であった時代に苦学して教員となった田中菊雄の生涯は、私たちに今日につながる教育的課題を提供してくれるのではないだろうか。



立体スケッチ入門

—コンピューターによる3Dモデリング—

2014年10月4日（土）13:00～14:30

東海大学 国際文化学部 デザイン文化学科 渡辺 宏二

コンピュータで3D(立体)モデルを作成する SketchUp というアプリケーションソフトウェアをワークショップ形式で紹介した。SketchUp は元々は建築・インテリアの空間デザイン用に開発されたが、使い勝手が良く、無償版が公開されていることもあり、様々な分野で広く使われている。今回は、話題となっている3Dプリンタを利用する側面から、①「3Dプリンタと SketchUp」、②「SketchUp 操作入門」、③「モデリング後の3Dプリント工程」に分けて講座を進行した。

① 3Dプリンタと SketchUp

熱溶解樹脂積層法による3Dプリンタは、10万円を切った低価格のマシンも登場し、家電量販店でも取り扱われるようになるなど普及が進んできた。3Dプリンタでモデルを出力するには、3Dのモデルデータが必要である。モデルのデータを作る方法の一つは既にある立体物形状を3Dスキャナ等の機械により読み取ってしまう方法で、もう一つがコンピュータ上で3D-CAD/CGアプリケーションソフトウェアを使ってモデルデータを直接作る方法である。3D-CAD/CGアプリケーションソフトウェアの一つである SketchUp は、無償配布版を有し（無償配布版の正式名称は SketchUp-Make、以下 SketchUp と略す）、また Windows 版も MacOS 版もあるマルチプラットフォームで、操作体系もシンプルなために習得しやすく使いやすい。

② SketchUp 操作入門

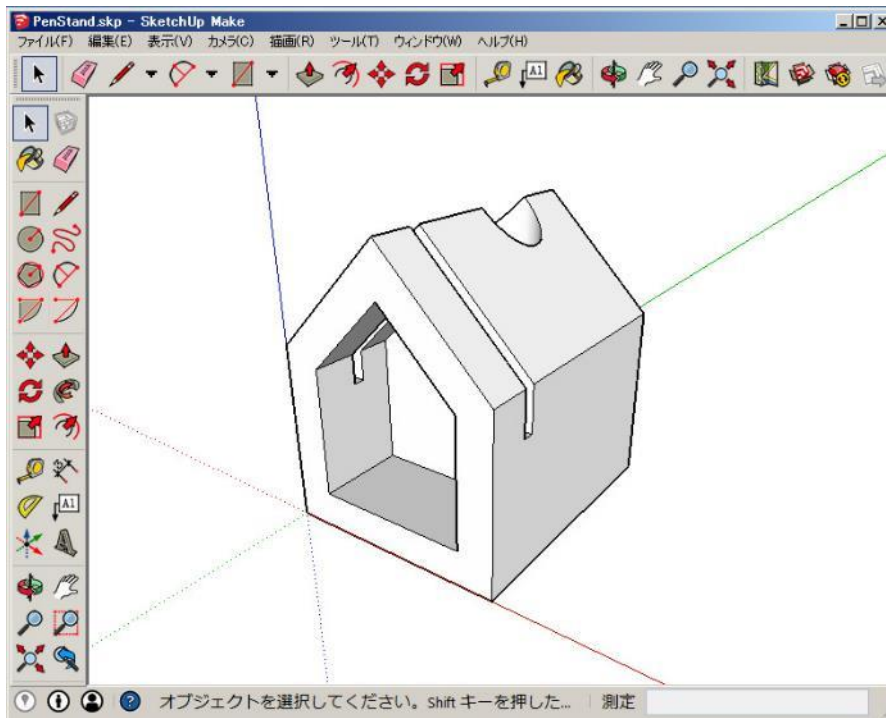
参加者にはノート PC に直接触れてもらいながら SketchUp の基本操作を体験していただいた。基本操作の習得に続き、簡単な小物のモデルのデータを作成した。このようなワークショップ形式には若干の不安があったが、機材提供ならびに参加者誘導など運営スタッフの方々のご支援により滞りなく進行できたことを感謝したい。

③ モデリング後の 3D プリント工程

操作入門の後、モデルデータ作成以降の 3D プリント出力までの工程を概説した。モデリング後は、面により内部と外部が完全分離したソリッド図形で、断面の厚みが 2mm 以上、かつ、部分的に弱いところを作らないようにモデルの調整をおこない、3D プリント用形状ファイル(STL 形式)に変換する。続いて、スライサーと呼ばれる出力用データ変換アプリケーションソフトウェアで先の形状ファイルを読み込み、モデル精度・外殻および内部の密度・出力速度・サポート材などを設定し、出力用ファイル(3w 形式)に変換する。最後に変換データをプリンタに送信し造形出力するが、出力時間は小さなものでも数時間ほど掛かることに留意されたい。

最後に、3D プリントの一連の工程で使用するソフトウェアやモデルデータに無償配布されているものがあることに触れ、SketchUp 以外のモデル作成ソフトウェアとして、動作環境として PC の他、iPhone/iPad や Web アプリも用意されている Autodesk 社の「123D-Design」についても簡単に紹介し、講座を終了した。





中核都市旭川成立の歴史背景

2014年10月18日（土）13:00～14:30

旭川工業高等専門学校 平野 友彦

旭川市民は、帯広市民などと比べて地元への愛着が弱いのではないかといわれている。それでは、戦前の市民はどうだったのでしょうか。史料を調べてみると、強い地元意識を持っていたことが分かった。また、戦前、旭川は「軍都」と呼ばれたが、市民は軍隊との関わりの中で、この地元意識を有効に使っていたことも分かった。

そこで、戦前の市民が持っていた地元意識とはどのようなものか、また、市民が軍隊とどう関わったのかを限られた史料の中で垣間見ることとした。

最近の日本近代史研究では、軍隊と地域住民との関わりが注目され、日本の近代都市は、旧城下町の土台の上に、軍隊の設置によって、市制施行期までに「軍都」として成立したと指摘されている（河西英通『せめぎあう地域と軍隊』岩波書店、2010）。

旭川が市になったのは1922年（大正11）のことである。それまでの経過を概観すると次の通りであった。

1886年（明治19）上川仮道路開削（1890年本道路完成）、1889年上川に離宮設置の閣議決定。1890年永山村・旭川村・神居村設置。1891～93年永山・東旭川・当麻3兵村設置。1898年官設鉄道上川線開通。1899年第七師団が札幌から移駐（1902年完了）。1900年旭川町に改称。1902年旭川町に1級町村制施行。1914年（大正3）旭川区となる。

こうした経過の中で、人々は地元意識を育てていったようである。すなわち、1902年発行の『上川便覧』は、当時の旭川の様子を、「地勢に於て北海道の京都たる上川は今や政治軍事の上に於て北海道の東京足らんとす」と。また、1908年の『旭川町事務報告』は、「膨張発展ノ隆勢ヲ示スハ当町天然ノ地利之レカ因ヲ為スモノト謂フ可シ」と書いている。

さらに、奥田千春町長が、1907年2月に、区制実施を北海道庁長官や内務大臣に要求した書状の中で、「三十七八年戦役に際し、師団外征せらるゝも、尚且つ発展は依然として影響する所なく、例年の如く学齡児童増加に伴ひ、校舍増築に汲々たる状況に見るも、由来本町は或程度迄は、確かに拡大すべき先天的地理を固有し、普通一般の町村とは同一視することを得ざるものあるべきを証するものに有之候」と記している。

このように、旭川は、市になる前に、第七師団が移駐し、それを背景に「北海道の東京」と呼ぶべき環境を整え、まさに近代都市＝「軍都」と呼ぶべき様相を示すに至ったのである。本州の近代都市は、旧城下町の土台の上に軍隊が設置されて形成された。しかし、旭川は城下町ではなかった。それでは、それに代わる都市としての土台は何であったのであろう。それは、上記引用文中の下線部に「天然ノ地利」、「先天的地理を固有し」とあるように、「天然」、「先天的地理」すなわち自然環境であった。

この上川地域の自然環境について、江戸時代の幕府役人近藤重蔵は古地図「蝦夷地絵図」の中に、「蝦夷地」の中央にあり、土地が肥沃で百万石の米が収穫でき、ロシアからの侵略を防ぐための「擁護之地」として最適であると書いた。また、北海道庁初代長官岩村通俊は会計検査院長時代の1882年と司法大輔時代の1885年の2度、上川は北海道の中心にあり、土地が肥沃で、「一大都府」になる可能性があるとして、上川に「北京」を置くことを政府に進言している。

このように、上川は、古くから、北海道の中心に位置し、土地が肥沃であり、軍事的、政治的中心地として最適であると考えられていたのである。

この上川地域特有の自然環境は、地元の人々にも認識されることとなり、上記の奥田町長も、師団に頼らなくても、旭川の発展は、普通一般とは違う、旭川が有する「先天的地理」によって保証されていると言い放っている。この地元意識によって、自治体としての旭川は、師団から相対的に自立することが出来たのである。

この地元意識は、開村30年を迎えて一層の高まりを見せ、市制施行への期待が強まる中で、「旭都」なる呼称を出現させた。この呼称は1920年10月の新聞記事に初見し、1942年4月の記事を持って見えなくなる。

一方、1933年8月の新聞記事から「軍都」という呼称が見え始める。満州事変から太平洋戦争へと戦時体制が色濃くなる中で、次第に「旭都」は使われなくなり、太平洋戦争中は「軍都」一色となる。

戦争が終わると、戦時中、「軍都」の住民であった旭川市民は、その記憶を拭うかのように、「平和」を前面に押し出し、「師団通」を「平和通」へと名前を変えた。そして、復興発展を目指す市民の地元意識の表象として、再び「旭都」が使われ始めた。その呼称は、管見の限り、1980年代後半頃まで新聞記事に見えるが、その後はほとんど見えず、今日、多くの市民はその呼称を知らない。

旭川市民は地元意識が弱いといわれるが、それは、以上見たように、昔からのことではなく、最近のことである。今後の旭川の将来を考える時に、「旭都」に表された地元意識をもう一度見直してみる必要があるであろう。



旭川市は子どもにやさしいまちになれるか

2015年11月1日（土）13：00～14：30

旭川大学短期大学部 清水 冬樹

上記のテーマのもと、子どもの権利を保障するためのまちのあり方について、UNICEF が示している「こどもにやさしいまち」の定義を参考にしながら、旭川市は子どもにやさしいまちなのかどうかを冷静に分析することに主眼を置きながらお話をさせていただきました。

冒頭では、子どもの権利と権利条約、UNICEF の位置付け、“こどもにやさしいまち” についての確認を行いました。まず、国内の子ども権利バッシングの現状と世界標準としての子どもの権利の違いを明確に示した上で、子どもの権利（条約）の概要を説明いたしました。子どもの権利条約では、締約国へ子どもの権利を保障していくための様々な仕組みや方策の構築を求めているのに対し、子どもたちの暮らしに密着している自治体に対してはそうしたものが示されていません。国連の補助機関である UNICEF は、そうした自治体による子どもの権利保障のシステムのあり方を“こどもにやさしいまち” という概念で示していることを紹介したうえで、“こどもにやさしいまち” を積極的に取り組んでいる神奈川県川崎市の実践を見ていただきました。

次に、“こどもにやさしいまち” の定義を紹介した上で、旭川市の子ども施策をその定義に則って分析しました。“こどもにやさしいまち” の定義は「子どもの権利に全面的に同意を示したまちであり、地方自治の仕組み」とされ、具体的には以下の通りです。

- 子どもたちがまちに関する大きな発言権がある
- まちづくりに対して子どもたちが意見を出すことができる
- 家族、地域、社会生活に参加することができる
- 健康や教育など基本的なサービスが提供されている
- 搾取や暴力、虐待から守られる
- 安全に道を歩くことができる
- 友だちと出会い遊ぶことができる
- 植物や動物のための緑の空間がある
- 汚染されていない環境下で暮らすことができる
- 文化や社会活動に参加できる

- 民族、宗教、収入、ジェンダーや障がいに関わらず、市民として暮らすためのサービスにアクセスできる

“こどもにやさしいまち”が実現しているかどうかを確認する構造と活動を次に紹介し、分析枠組みを示しました。

- 子どもの参画
- 子どもにやさしい法的枠組み
- 都市全体に子どもの権利を保障する施策
- 子どもの権利部門または調整機構
- 子どもへの影響評価
- 子どもに関する予算
- 子どもの報告書と定期的発行
- 子どもの権利の広報
- 子どものための独自の活動

上記の分析枠組みを用いて旭川市の子ども施策を分析しました。その結果は次のようなものでした。

- ✓ 子どもが与えられた役割内容を認識した上での子どもの参画が散見され、子どもと大人のパートナーとしての参画が見られない
- ✓ 子ども条例が各子ども施策にどういった影響を与えているかが不明瞭
- ✓ 子どもの権利の視点から子ども施策を評価する仕組みを早急に構築すべき
- ✓ 子ども条例が飾り物になってしまっている
- ✓ 子どもに関する予算は全国の中核都市と比較すると低く、子どもの数が少ないことが要因
- ✓ 子ども計画の中核になるであろう「子ども子育てプラン」に子どもの権利保障に関する記述があまり見られない
- ✓ 旭川市の子どもの実態に関わるデータが非常に少ない
→多角的なデータがない中で、子どもの「今」が危機的な状況であると煽っているものも見受けられる（例：中絶率）
- ✓ 子どもの権利に関する数値目標を示すべき
- ✓ オンブズのような独自の救済機関を設置すべき

最後に、これまで関わらせていただいた全国各地の自治体における子ども施策の展開を踏まえながら旭川市の子ども施策の特徴を述べた上で、旭川市の子どもにやさしいまちとなる可能性について議論をしました。具体的には、旭川市の子ども施策は公的なサービスに偏重していること、市民社会による共助がなかなか見られないということです。例えば、保育制度や学校教育制度は、子どもたちが育つための大切な資源であると同時に、一つの手段でもあります。子どもの多様な暮らしや育ちを支える手段の必要性が全国各地で提起され、具体的な活動が市民社会の側から実践されている一方で、市民社会があまり奮起していないのが旭川市の特徴です。何でもかんでも公的サービスを期待するのではなく、しっかりと市民社会が子どもたちがこのまちで育つことは自分たちの問題であることを理解し、最も子どもたちの身近にいる市民が子どもたちのパートナーとなって、必要とあらば行政とも手を取り合いながら、子どもにやさしいまちを実現していくことが必要です。そのためにも、多様な人たちとつながりながら、子どもたちと向き合い、旭川の子どもの今と将来を考えていくことをもっと積極的に私たちがしていきたいと思います、として講義を締めさせていただきました。



「活力ある高齢社会を築くために

～地域の力で、まちを元気に！～」

2015年11月8日（土）13：00～14：30

旭川大学 保健福祉学部 コミュニティ福祉学科 林 芳治

1. 現代の高齢社会の現実

① ライフサイクルの変化

ライフサイクル：一生の生活に見られる規則的な変化

出産期間は3年と短くなったが、子どもの扶養期間は25年と長い。定年後の期間は17.6年、老親の扶養期間も20.4年、寡婦期間も10年であり、10年～20年のスパンで老後の人生を考えなければいけない時代になった。

② 介護の必要な高齢者と元気な高齢者はどちらが多い？

要介護者になる原因：

第1位 脳血管障害 第2位 骨関節運動器疾患 第3位 廃用症候群

元気高齢者2820万人 圧倒的に普通に暮らせる人は80%以上である。

元気であればあるほど寝たきりの期間は短い。

③ 家族（子ども）とのかかわり

別居している子どもとの接触頻度

週1回以上が45.9%、月1～2回以下53.6%で、他の先進国の中で一番親との接触頻度が少ない。親の扶養が難しい実態。

2. 21世紀の地域社会 旭川市34万人→26万7千人の縮小社会

機能、仕組みが小さくなる。やってもらえたことがやってもらえなくなる。

現在の地域社会：自己完結型社会、都市化、生活の多様化、価値観の多様化、個別化、世代間のギャップ

「地縁と知縁」はわざわざつくらないとできない社会

日本社会の良さを再発見させてくれた東日本大震災

欧米社会が評価する日本人社会の良いところ

和 Harmony 協調・敬 Respect 尊重、尊敬・清 Purity 清潔・寂

Tranquility 落ち着き・わび、さび Wabisabi 古いものを大切に、世俗を離れて・克己 Self-control 欲望を抑える、自制心・思いやり Empathy 共感・繊細 Refinement 気づき・仁 Benevolence 博愛、善行、慈善・連帯 Solidarity 責任を思いやる・集団 Collective まとまり、まとまった声
*皆で作りに上げてきた国民性。公と私を上手に分離してきた。

3. 地域見守りシステムの役割と必要性

介護保険の改正から住民主体となる互助機能が重要な地域力に位置づけられる。

自助・互助・共助・公助の機能と役割が地域包括的ケアシステムを創る。

子どもを大切にしない国は滅びる

現役を引退した人をどう処遇するかによって社会は真の相貌を表す

(ヴォーヴォアール)



歌謡曲の中の旭川

－札幌・函館・小樽・釧路などの場合と比較して－

2014年11月22日（土）13:00～14:30

旭川医科大学 藤尾 均

世に「御当地ソング」と呼ばれる歌謡曲は数多い。旭川を舞台とするものも存在し、美川憲一、藤圭子、横内じゅん、細川たかし、中坪健、ロス・プリモスなどの歌手が歌っている。しかし、その数は少なく、しかも札幌・函館・小樽・釧路などの場合とは違って全国的に知られた大ヒット曲はない。なぜだろうか。多角的に考えてみた。

1. いわゆる「御当地ソング」のあゆみ

レコード歌謡が巷に広く流れ始めたのは昭和の初期であるが、戦前・戦中・終戦直後は、地名を織り込んだヒット曲といえば東京ものがほとんどであった。大都会東京へのあこがれを掻きたてるような曲であり、佐藤千夜子「東京行進曲」（1929年）、藤山一郎「東京ラブソディー」（1936年）、美空ひばり「東京キッド」（1950年）などがその代表である。

戦後になると地方都市を織り込んだ全国的なヒット曲が誕生した。小畑実「長崎のザボン売り」（1948年）、ペギー葉山「南国土佐を後にして」（1959年）、春日八郎「長崎の女」（1963年）などがある。1965年以降、つまり昭和40年代ともなると、御当地ソングのヒット曲が次々に誕生した。起爆剤は北島三郎「函館の女」（1965年）である。これ以後、彼は「女（ひと）」シリーズを続々ヒットさせた。「尾道の女」（1966年）、「博多の女」（1967年）、「薩摩の女」「伊予の女」「伊勢の女」（以上1968年）、「加賀の女」（1969年）という具合である。こうして御当地ソングは全国的に花盛りとなり、観光ブームにもつながった。

2. 北海道の特定の都市を舞台とする大ヒット御当地ソング

北海道の御当地ソングの起爆剤は前述の「函館の女」である。これには地名として函館山と松風町が登場している。ちなみに、ほかに函館を舞台とする大ヒット曲に森昌子の「立待岬」（1982年）などがある。

続く大ヒットは鶴岡雅義と東京ロマンチカ「小樽のひとよ」（1967年）である。レキントギターの甘い調べに乗せて、小樽駅、塩谷の浜辺、（手宮洞窟の）

古代の文字（と思しきもの）が登場する。小樽を舞台とする大ヒットには、ほかに都はるみ「小樽運河」（1990年）などがある。

次の大ヒットは美川憲一「釧路の夜」（1968年）である。固有名詞として釧路川とヌサマイ橋が登場する。釧路にちなんだ歌には、ほかに水森かおりの「釧路湿原」（2004年）などがある。

1972（昭和47）年は札幌オリンピックの年であった。この年の大ヒットに石原裕次郎「恋の町札幌」がある。「時計台の下で逢って」で始まる甘い歌声は多くの裕次郎ファンを魅了した。札幌といえば、桂銀淑と浜圭介のデュエット曲「北空港」（1987年）も大ヒットした。1番・2番・3番とも、歌いだしのフレーズは「夜の札幌」である。

こうして北海道を代表する4つの都市には、いずれも大ヒットの御当地ソングが多数存在する。

3. 北海道の複数の都市が登場する大ヒット御当地ソング

北島三郎「風雪ながれ旅」（1980年）は、放浪の津軽三味線奏者、高橋竹山をモデルにした傑作である。1番の歌詞こそ津軽・八戸・大湊と東北であるが、2番には小樽・函館・苫小牧が歌い込まれ、3番は留萌・滝川・稚内である。

石原裕次郎「北の旅人」（1987年）は、主人公の男が別れた恋人を追って北海道を転々と旅するという設定の曲で、舞台は1番が釧路、2番が函館、3番が小樽である。

ほぼ同じモチーフの比較的新しい曲が、氷川きよし「初恋列車」（2005年）である。1番に青森と函館、2番に苫小牧、3番に釧路と室蘭が登場する。

こうして北海道の地名が複数読み込まれた大ヒット曲にもいろいろある。残念ながら、いずれにも旭川は登場しない。とはいえ旭川を舞台とする御当地ソングも決して無いわけではない。

4. 旭川を舞台とする御当地ソングあれこれ

旭川を舞台とする御当地歌謡も、函館・小樽・釧路・札幌の場合と同様に、すでに1970年代には発表されていた。

まず美川憲一「旭川の夜」（1970年）。あるレコード曲のB面である。恋する男に去られた女の未練が込められた暗い曲で、石狩川と大雪山と近文が登場する。「どうぞ体を大雪山（たいせつやま）に たまにや近文してほしい」とダジャレになっている。ちなみにこの近文は付け文のもじりであろう。「釧路の夜」は大ヒットしたが、同じ歌手による「旭川の夜」のほうは、その存在さえ知らない人が多いようである。

旭川で育った藤圭子には「旭川の女」（1971年）という曲がある。これは、

LPレコードの1曲として収録されたもので、彼女のイメージに合わせてか、やはり暗い感じの曲である。

横内じゅんは北海道を中心に長年にわたって地道に活動しているが、「旭川慕情」(1976年)は彼自身が作曲しシングルレコードのB面として発表されたものである。旭橋、みどり橋、三六通りが登場する。やはり、失恋した女性の未練をうたった暗い感じの歌である。

これに対し細川たかし「旭川恋の町」(1984年)は、おそらく旭川のタイトルがついた曲の中では初の、レコードA面の曲である。曲調も明るい。しかし、同じ作詞・作曲者(有名な浜口庫之助)の手になる類似タイトルの「恋の町札幌」と比べ、詞にも曲にも歌唱にも、ムードが全く感じられない。登場する場所は旭橋のみである。

中坪健「旭川ブルース」(1985年)も失恋をモチーフにした暗い感じの曲である。もとは前述の細川たかし「旭川恋の町」のB面の曲であったが、中坪がA面の曲として吹き込み直している。1番・2番・3番すべての末尾が「ああ氷点の街旭川」となっている。この歌詞はいうまでもなく三浦綾子の小説『氷点』にちなんでいる。

「ラブユー東京」で一世を風靡したロス・プリモスにも「旭川ブルース」(1992年)という持ち歌があるが、中坪健のものとは全く異なる。LPの1曲として収録されたもので、いわゆるムード歌謡である。大雪山、三・六街、石狩川が登場する。

最後に、2014年の秋に発表された倍賞千恵子の「誰のための愛」をあげておこう。これは、『氷点』50周年を記念して発表された、三浦綾子の女学校時代の詞に曲をつけた「お月様と影ぼうし」の、カップリング曲である。「凍りつく空に屋根がすがりつく旭川」で始まり、やはり曲調は暗い。

5. 旭川の御当地ソングから全国的大ヒットが出ないわけ

こうして旭川にちなんだ、いわゆる御当地ソングは決して少なくない。しかし、全国的なヒット曲はいまだに生まれていない。その理由を私なりに考察してみた。

①旭川という地名は、発音が5文字と長い。小樽・釧路の3文字、函館・札幌の4文字に比べ、歌詞には嵌め込みにくい。5文字のライバルには苫小牧や稚内がある。前者は海沿いの町で後者は北のはずれ。いずれも旭川に比べれば絵になりやすい。内陸の旭川はドラマ性に乏しく、不利である。

②紹介した曲のほとんどは、歌詞が暗い。もともと旭川には雪深い土地というイメージがある。既に明治時代に江丹別で記録された日本の史上最低気温マ

イナス 41.3 度が国民の多くの記憶に定着しており、江丹別が紹介されるときは「旭川郊外の江丹別」と紹介される。こうして否応なく旭川のイメージは暗くなりがちである。たまに明るい曲もあるが、明るいだけでムードには乏しい。

③歌詞に登場する地名に色気がない。盛り場にしても、札幌市のすすきの、金沢市の香林坊、岐阜市の柳ヶ瀬、鹿児島市の天文館などは、音の響きも文字も、なんとなく旅情を誘う。行ってみたくもなる。しかし、旭川の三・六（三条六丁目）は、数字が織り込まれているだけで何とも色気がない。文字を見ずに耳で聞いただけでは「山麓」と間違えそうである。橋にしても同様である。東京浅草の言問橋、新潟の万代橋、釧路のヌサマイ橋などと異なり、旭川の旭橋では全く旅情が湧かない。

④函館、小樽、苫小牧、室蘭、釧路、稚内など海沿いの町あるいは海に近い町は、いずれも絵になる。これに対し、旭川は完全な内陸で絵画的な情緒に乏しい。波をのりこえて、沖の潮風、しぶきもこおる（以上「函館の女」）、二人で塩谷の浜辺（「小樽のひとよ」）、船の汽笛もない（「釧路の夜」）、かもめ啼く声（「風雪ながれ旅」）、たどりついたら岬のはずれ、空でちぎれるあの汽笛（以上「北の旅人」）、しぶきがくれの海峡、かもめが鳴いて翔ぶ声、今日も岬に陽が落ちる、漁火ゆれる海沿い（以上「初恋列車」）など、いずれも風景が目に浮かぶようである。

6. 今後の展望

現在、インターネットの動画サイト You tube で確認できる旭川の御当地ソングとして、シリアスなものでは大野英二「旭川無情」、芦川るい「旭川情話」、牧野孝三「雪子の旭川」があり、コミカルなものでは、くまがいやすのり「旭川夢の街」がある。大坊浩嗣「北の悲恋」は、タイトルにこそ旭川は登場しないが歌詞には登場する。探せばほかにもまだまだありそうである。旭川とその周辺に根付いて活躍している歌手も少なくないであろう。

これらの中、あるいは今後発表される旭川の御当地ソングの中から、全国的なヒット曲が続々と生まれて欲しいと心から願う。



「あさひかわ オープンカレッジ」アンケート集計

「英語学者 田中菊雄の旭川」

9月27日（土）＜15名参加中 11名記入＞

1. 今回の講義で、あなたが学んだことや感想を書いてください。
 - ・豊富な資料がとても貴重でした。
 - ・検定で教授になった事に対して当時は大変苦勞したことだと思いました。現在ではどうでしょうか。合格は無理と学びました。
 - ・大変楽しくためになりました。旭川にいらした方がこんなに立派な方で励みになりました。やる気が出てきました。手が不自由なので乱筆乱文にて失礼いたします。
 - ・英語を勉強することの意味、英語をものにするということの意味について考えさせられました。「英語青年」の編集の在り方に驚きました。講師の先生の熱情がひしひしと伝わってきました。昨今の指導法の理論背景について、頼りなさを感じていますので…よろしく。
 - ・英語の学習はこんなに大変なのだなあと思った。国文科を卒業していながら、やはり英語が学生の頃から好きなのでサークルなどで学習しています。まだまだ児童書しかすらすら読むことはできません。
 - ・現在ではあまり聞かないが、田中菊雄先生のような苦学生。色々な分野で頑張っておられる方々が沢山いました。家が貧困でも頑張れば道が開かれた事も今は違う気がしますが、凄い人ですね。
 - ・この講座を受講するまで田中菊雄氏の事は全然知りませんでした。小学校4年生までしか出ていないのに今更ながら頭が下がります。一つでも見習わなければと思いました。
 - ・田中菊雄氏が苦勞しながら英語を勉強し山形大の教授にまでなったことに頭が下がります。大変良い話を聞きました。ありがとうございました。
 - ・田中先生の労苦や努力を驚き認識させていただきました。現代では考えられない人間像である事を生徒達に伝えてください。大変有意義な時間でした。
 - ・大学の先生、詳しくわかりやすく説明してくださって感謝します。今後の活躍を期待します。

2. 今後、受けてみたい講義は何ですか？（テーマをあげてください）
- ・ 田中先生と旭川の関係をもう少し学びたい。（大正元年～結婚までの期間）
 - ・ 坂本先生の講義を受けたいです。
 - ・ 旭川大学佐藤慶如先生の脳についての講座を受けたい。
 - ・ 外国人の講座も持ってほしい。
 - ・ 地図から学ぶ新聞を見ると何かが変わる。

3. 今回の講座に参加するのは…

初めて	2回目	3回目	4回目	それ以上
5人	3人	1人		2人

4. この講座をどこで知りましたか？

友人	公的機関 (公民館等)	市民こうほう (冊子)	その他	Uプラザ
1人	4人	3人	2人	1人

5. あなたの年齢は？

20代～	30代～	40代～	50代～	60代～	70代～
				3人	8人

6. 性別は？

男性	女性
7人	4人

「立体スケッチ入門」

10月4日（土）＜11名参加中 11名記入＞

1. 今回の講義で、あなたが学んだことや感想を書いてください。
 - ・面白い時間であった。
 - ・今までにないテクニカルな講座であり楽しく学ぶことが出来ました。有意義な時間でした。
 - ・私としてはむしろかかった。しかし興味をもちました。もう一回学んでみたいと思います。
 - ・大変勉強になりました有難うございました。
 - ・近年新しい機器がどんどん開発されて高齢者はついていけないのが情けないです。それでも学んでみよう意欲だけあります。
 - ・デジタル化というのは想像もつかない事が出来る。のめり込む年齢ではないが非常に楽しかった。類似講座があれば参加してみたい。
 - ・とても興味があったことだったので楽しく受講できました。
 - ・実際のパソコン操作はなくても3Dプリンタの話だけでも良かったかも。

2. 今後、受けてみたい講義は何ですか？（テーマをあげてください）
 - ・3Dの今後の発展方向について
 - ・旭川の歴史について
 - ・円安・円高による一般市民の生活に大きな影響がどのように関わってくるのか学びたい。
 - ・自然環境のようなテーマと上記の類似テーマ
 - ・旭川の生き物
 - ・3Dコピーの体験学習

3. 今回の講座に参加するのは…

初めて	2回目	3回目	4回目	それ以上
8人	2人	1人		

4. この講座をどこで知りましたか？

大学からの案内	友人	公的機関 (公民館等)	市民こうほう (冊子)	その他
		9人		2人

5. あなたの年齢は？

20代～	30代～	40代～	50代～	60代～	70代～
	1人	1人		2人	7人

6. 性別は？

男性	女性
9人	2人

「中核都市旭川成立の歴史背景」

10月18日（土）＜18名参加中 13名記入＞

1. 今回の講義で、あなたが学んだことや感想を書いてください。
 - ・江戸時代から旭川の存在を認識されていた点が良く理解でき有意義な時間でした。
 - ・初めて見た資料もあって、平野先生さすがと思い大変有意義な講義を受けて嬉しいです。
 - ・旭川の歴史の中には知らないことが多いと思った。
 - ・旭川の今に至る歴史的な流れが初めて知ることができました。今までの漠然とした知識に加わり大変わかりやすく学べました。
 - ・歴史的背景が要領よくまとめて講話していただき大変参考になり、旭川人として意識を持つように努めたい。
 - ・旭川成立の歴史的背景等について学ぶことができました。もし、旭川に上川離宮設置が実現していたら、現在の旭川はどうなっていたらと考えると…旭川市民の地元意識も違っていただろうか。
 - ・軍都と旭都の呼称は良く理解できました。旭川はロシアの防衛地としては未だ理解できません。ロシア防衛なら天塩とか宗谷ではなかったのか。（出勤には非常に便利ではなかったのか知りたいです。）
 - ・軍都と旭都の歴史の流れが理解できた。
 - ・旭川が中核都市として発展してきた本当の経緯が分かって来たようでホッとした気分です。（種々の歴史を聞いてきたので。）
 - ・旭川の歴史郷土各講師の方から勉強しました。今日の講座も大変楽しく勉強できました。ありがとうございました。
 - ・旭都、軍都の順が、軍都、旭都の順となり最後に軍都が消えたことの経緯がわかりました。
 - ・旭都である旭川の意義。旭都として旭川が発展する余地・可能性について講師の願い希望。
 - ・とても勉強になりました。旭川市民として「旭都」の意識を持って旭川発展のために頑張っていきたいと思いました。

2. 今後、受けてみたい講義は何ですか？（テーマをあげてください）

- ・映画で見る上川・旭川
- ・色々な分野で歴史背景をさらに詳しく学びたい。
- ・北海道の発展と旭川市の今後はどのように進めるか、大いに研究した人たちの話を聞きたい。
- ・近藤重蔵時代の旭川付近住民の生活状況（環境）和人とアイヌの人口比等
- ・旭川に今以上、沢山の外国人の観光客に来てほしい。市民として何ができるのでしょうか？方策等。
- ・北海道発展に囚人が果たした役割など。
- ・古地図から見た旭川

3. 今回の講座に参加するのは…

初めて	2回目	3回目	4回目	それ以上
3人	2人	4人		4人

4. この講座をどこで申し込みましたか？

大学からの案内	友人	公的機関 (公民館等)	市民こうほう (冊子)	その他 (道民カレッジガイドブック)
		5人	6人	2人

5. あなたの年齢は？

20代～	30代～	40代～	50代～	60代～	70代～
			1人	3人	9人

6. 性別は？

男性	女性
10人	3人

「旭川市は子どもたちにやさしいまちになれるか」

11月1日（土）＜21名参加中 18名記入＞

1. 今回の講義で、あなたが学んだことや感想を書いてください。
 - ・旭川に子ども条例があることを知りませんでした。子供は未来の希望！いじめ、自殺、虐待、子供を取り巻く環境は非常に厳しい。課題山積みの実態である。
 - ・子どもの権利を保障する「子ども条例」の策定のむずかしさがわかりました。私たちの子どもの頃と比べて過保護的な感じ、それだけ豊かになっているのか？
 - ・子どもの権利条約に関する諸々の考え方、見方、理念が何となく理解できました。
 - ・数値での客観的比較で大変参考になりました。自治体に対してもっと積極的に協力すべきと思う。
 - ・子どもに向き合う人達みんながつながって連携してまちづくりを行うことの大切さ、子どもを支える仕組みも分かって良かった。
 - ・権利＝数値目標（評価）に対して非常に参考になりました。
 - ・子供達の姿が余りみられないのがさみしい。もう少しのびのびした姿がみたいです。ありがとうございました。
 - ・改めて旭川市が子供に関する問題を抱えているんだと気付くことが出来ました。行政のチカラも必要かと思うが市民の働きかけも必要だと思った。
 - ・「子供の権利」意識を誤解なく浸透させることが大事だと思いました。
 - ・旭川市の課題
 - ・現在子どもカレッジ手帳の活用についてボランティア活動として活動化（活性化）を求めて活動しようとしていることもある。
 - ・自主性を育てると言いながら大人の押しつけが多いのではないか。
 - ・子供達が大きくなり「子ども条例」から離れて居りました。あらためて「子ども条例」等々考えさせられたひとときでした。
 - ・系統だてた思考力の養成が重要である事をあらためて認識した。
市役所がんばれ！！
 - ・今の時代は豊かで自然の遊びは探さないと見つからない。
公園でも、きれいに整備され、危険だからと規則が先回りし伸び伸びするところはあるのだろうか、今の子供は携帯・タブレットなどのような器具に目を向けるものばかりで、遊びに行ってもゲームでお互いに話をするなどはないらしい。

私たちの幼小の頃は自然がいっぱいで、女の子でも木に登り楽しみ危険を覚えてきた。上下の子供関係も常にあって優しい気持ちもいっぱいあった。今は昔遊びのボランティアがあつてお手玉など教えているが良いこととは思いますがあまりにも便利すぎて子供が優しくなったり親が優しさを教えて行くことが本当にできるのだろうか。だから今日のようなタイトルでお勉強させていただいた場所を開いてくださったことは素晴らしい（将来に向けて）ことだったと思います。一所懸命清水先生が研究してくださったこと伝わってきました。有難うございました。

2. 今後、受けてみたい講義は何ですか？（テーマをあげてください）

- ・子供に関する事
- ・評価の数値表わし方
- ・地域コミュニティの今後
- ・児童虐待関連のテーマ

3. 今回の講座に参加するのは…

初めて	2回目	3回目	4回目	それ以上
7人		4人	2人	5人

4. この講座をどこでしましたか？

大学からの案内	友人	公的機関 (公民館等)	市民こうほう (冊子)	その他	Uプラザ
	2人	7人	4人	2人	3人

5. あなたの年齢は？

20代～	30代～	40代～	50代～	60代～	70代～
2人		1人	1人	2人	12人

6. 性別は？

男性	女性
13人	5人

「活力ある高齢社会を築くために

～地域の力で、まちを元気に！～」

11月8日（土）＜25名参加中 22名記入＞

1. 今回の講義で、あなたが学んだことや感想を書いてください。
 - ・地域包括ケアシステムの概要を学んだのは良かった。社会の急激な変化の中で守るべきものは何なのかを考える良い材料を得ました。
 - ・都市の高齢社会として高齢者の生活がしづらくなり、又他の人との関りがなくなり生活しづらくなった。
地域のまとまり、暮らしが孤立化していることが充分理解することができた。自分はこの社会でどのように暮らしていくか考えることの必要性を理解した。
 - ・地域包括支援センターとのかかわりの一部がわかりました。一度センターに相談に行ってくださいと言われていた一人です。
 - ・林先生、とても分かりやすくて良く聞こえました。
ますます高齢者もきびしい時代がくるのか、とても不安に思いました。
 - ・引きこもりはだめ。今日の話良かった。
 - ・高齢化・人口減問題に関しては関心が高い。具体的でわかりやすかった。
 - ・大変参考になりました。私も高齢者ですが、今の時点で自分は何ができるかを考え地域の中で行動していきたい。
 - ・ライフサイクルの変化について充分理解できたが、変化に対応する問題点を今後学びたい。H26年度はまだまた数値は変化しているのでしょうか。
 - ・ライフサイクルの変化が大変参考になった。
(人間生活との関係をよくものがたってくれている。)
 - ・数値で見る高齢化のライフスタイルの明暗を良く理解できました。
地域と関り合う重要性を認識できた。
 - ・今、社会の現実を知る事ができ良かった。要支援2の障害者で病氣も沢山持っていてヘルパーさんに助けて頂いていますが、3年後の事がわかり今からその時の年を考える事が出来よかったです。今、前向きに生活し色々な人に助けて貰い明るく生活していますが、それで良いのだとわかりました。
 - ・妻に誘われて来た。元気な年寄りになるよう心掛けます。
林先生の話がわかりやすかった。ありがとうございます。
 - ・程良い地域社会の関係。
「地域の力でまちを元気に」生活、価値観の多様化。

- ・現在、隣は何をする人ぞと言う言葉が幅をきかせている。
人のふり見て我振りかえると言う社会が懐かしい時代です。
- ・これから老後が心配ですね。地域包括支援センターの変更について不安が大きいです。今日の内容をもっと詳しく聞きたいです。
- ・別居している子供との接触頻度を考えてみると我家では年数回というところであり、その原因は休暇等が少ない、労働時間が長く不規則な日本の労働環境の低さが改めて考えさせられた。昔から日本は勤勉さ、まじめが売り物となっているが労働条件の低さは先進国では最低ではないのか？経済大国とは何だろう。
- ・只今高齢者、30年代子供を育てた時代、近所の方々に随分お世話になり子育て時代は大変助かりました。皆様優しくお世話くださったこと今でも思い出します。「地縁と知縁」
- ・人間関係の多様化によって環境が変化していつている。日本人は外からの要因がなければ変化しないのでは？
- ・周りの状況がうるさすぎる、階下の子供の声が聞こえる。
(6階もりもりパーク)
- ・元気であるためには介護予防が大切であることと、これからの社会は地縁づくり、知縁づくりも大切であると改めて学びました。

2. 今後、受けてみたい講義は何ですか？（テーマをあげてください）

- ・望ましい子育て環境とは
- ・これからの地域社会での新しいきずなを持たせるためにはどうしたら良
いか。
- ・旭川市の財政構造の現状と問題点
- ・旭川市のスポーツ政策の歴史と現状
- ・アイヌ民族の地位、世界の少数民族との比較
- ・旭川出身の芸術家・小説家の活動
- ・地域社会の高齢者住宅問題
- ・地域再生へのプログラム
- ・医大の坂本先生の講義
- ・外国の生活・習慣など
- ・改正介護保険法・制度について
- ・高齢者の就労について

3. 今回の講座に参加するのは…

初めて	2回目	3回目	4回目	それ以上
4人	4人	3人	4人	7人

4. この講座をどこでしましたか？

大学からの案内	友人	公的機関 (公民館等)	市民こうほう (冊子)	その他	Uプラザ
	1人	5人	6人	5人	5人

5. あなたの年齢は？

20代～	30代～	40代～	50代～	60代～	70代～
		2人	2人	3人	15人

6. 性別は？

男性	女性
16人	6人

「歌謡曲の中の旭川」

11月22日（土）＜13名参加中 11名記入＞

1. 今回の講義で、あなたが学んだことや感想を書いてください。
 - ・ 講座の運用の良さに感嘆。
 - ・ とても楽しかったです。若い頃を思い出し時の流れを感じました。
 - ・ 大変楽しかったです。
 - ・ 御当地ソングのおもしろさ。特に私は「恋の町札幌」がすばらしいと思う。唄うだけで札幌の風景が浮かんでくる名曲だと思う。
 - ・ 非常に懐かしい思いで学ばせていただきました。作詞作曲・歌手等の関わりを学びました。
 - ・ 今迄の講座の中で全く聞いたことがない時間を過ごさせて頂きました。楽しかったです。
 - ・ 二番目の旭川ブルースが良かったです。誰のための愛、倍賞千恵子さんの歌唱良かったです。
 - ・ とても楽しかったです。藤尾先生は3回目です。こういう講座もあって良いと思います。
 - ・ この講座、歌詞の中に北海道や旭川市の色々な事が記されているのが理解しました。これらが数多くあることがわかり楽しかったです。
 - ・ テーマとマッチした内容にインパクトがある話だったように思う。
 - ・ 地元、旭川の歌がたくさんあっても、知らない歌がたくさんあり勉強になりました。

2. 今後、受けてみたい講義は何ですか？（テーマをあげてください）
 - ・ 藤尾先生の別の講義を受けてみたいです。
 - ・ 世界経済と私たち一般市民の暮らしの変動等について。（円高・円安と生活への関わり）
 - ・ 旭川市の経済、人口問題について問題点を提示していただき、その解決を目指す方向性を提示してほしい。

3. 今回の講座に参加するのは…

初めて	2回目	3回目	4回目	それ以上
	1人	1人	1人	8人

4. この講座をどこでしましたか？

大学からの案内	友人	公的機関 (公民館等)	市民こうほう (冊子)	その他
		3人	6人	2人

5. あなたの年齢は？

20代～	30代～	40代～	50代～	60代～	70代～
			1人	1人	9人

6. 性別は？

男性	女性
7人	4人

一般社団法人旭川ウェルビーイング・コンソーシアム
連携公開講座 2014
旭川市教育委員会共催
「あさひかわオープンカレッジ」報告集

2015年3月発行

編集・発行：一般社団法人旭川ウェルビーイング・
コンソーシアム
連携公開講座部会代表校・旭川大学